



慶應義塾大学ビジネス・スクール

大宇グループ (A)

1996年夏、大宇電子はフランスの国営企業トムソンの家電部門であるトムソン・マルチメディアを買収する交渉を進めていた。この交渉にあたって、フランス政府と直接の交渉相手となるのはフランスの防衛産業の一翼をになっているラガルデール・グループであった。ラガルデールは、自社の防衛産業部門を強化するために、トムソンの防衛部門を買収することに関心を示していた。しかし、ラガルデールは単独でトムソンを買収するだけの資金力はなかったし、トムソンの家電部門を経営する経営資源ももっていなかった。このような事情から、大宇電子はラガルデールに対して、ラガルデールがトムソンを買収した際には、その家電部門であるトムソン・マルチメディアを買収することを申し出ていた。そこで、ラガルデールは、大宇電子にトムソン・マルチメディアを転売することを前提にして、フランス政府と交渉を進めていた。このフランス政府との交渉において、大宇電子がトムソン・マルチメディアを買収する条件が、交渉の成否にとって一つの重要な要因になると思われた。

大宇グループの沿革

大宇グループの創設者である金宇中 (Kim Woo-Choong) 氏は1936年12月に大邱 (Taegu) で生まれた。1950年、金宇中少年が14歳のとき、ソウルは北朝鮮の軍隊に占領され、彼の父と兄が北朝鮮に拉致された。このため、金宇中少年は、新聞売りなどをしながら、母親および4人の生活を支えた。朝鮮戦争の終結後、金一家は大邱での逃避生活からソウルに戻った。その後、金宇中氏は苦学して、ソウルの京畿高校 (Kyunggi High School) を卒業し、延世大学で経済学を学んだ。

このケースは慶應義塾大学教授の鈴木貞彦が同大学院経営管理研究科のクラス討議のために、公表資料に基づいて作成したものである。このケースは経営の巧拙を例示するものではない。(2000年8月作成)

Copyright © 2000 by Professor Sadahiko Suzuki of Graduate School of Business Administration, Keio University, Japan. No part of this publication may be reproduced, stored in a retrieval system, used in a spreadsheet, or transmitted in any form or by any means - electronic, mechanical, photocopying, recording, or otherwise - without permission of the author. (Prepared in August 2000)